

広島工業大(広島市佐伯区)の学生グループ「グリーンプロジェクト」が30日、坂町の人工海浜「ベイサイドビーチ」で海辺に自生する海浜植物の栽培実験を始めた。NP〇法人瀬戸内里海振興会(中区)の協力を得てより自然の海岸に近づけるとともに、開発で失われた植生の回復に役立てる。

ビーチは南北に長さ1・2キ。管理する県の許可を得て、北側に縦10区、横2区の栽培区画を4カ所設ける。満潮時の水際から5区と10区的位置に2区画ずつ配置。海との距離と植生の関係を探る。それぞれ1区画は保水性の高い土を混ぜ生育の違いを調べる。この日は学生や振興会のメ

緑ある人工ビーチに

広島工業大
坂で実験

植生回復へ種苗植え



ハマオモトを砂浜に植える学生

ンバー16人が、海辺に自生するハマオモトやハマエンドウの苗や種を植えた。実験は3年計画で学生は月1回程度、ビーチで生育を確認する。子どもたちを対象にした環境学習会の開催も検討する。順調に育てば2年後に花が咲くという。

振興会メンバーでもある同大環境学部の中野武登教授(67)は植物生態学の指導を受け、学生は大学でハマオモトなどの苗を育て実験に備えた。グリーンプロジェクト代表の環境学部4年土井由子さん(22)は「自然に近い姿を取り戻し、他の人工海浜にも活動を広げていきたい」と意気込んでいる。

(小山頭)